

ふるさと再発見 第48回

Rediscovery Omihachiman

たてもの探訪⑨

八幡社本殿

今回は馬淵町にある国の重要文化財である八幡社本殿を紹介いたします。

八幡社の伝えでは、平安時代に京都から奥州に軍勢を進める源義家が、この土地で靈験を得て応神天皇の霊を勧請したので始まりとされます。

本殿は、木造の三間社流造、檜皮葺で、桁行（正面）が三間（4・587m）、梁間（側面）が一間（2・279m）、向拝梁間（庇部分の側面）が一間（2・121m）を測る大振りの社殿です。

八幡社本殿の擬宝珠などに「文祿5年大岡作左衛門長広が再建」と書かれており、社殿の

全体的な特徴が桃山時代のもので一致することから、桃山時代の文祿5（1595）年に建てられたとされます。社殿全体が朱に塗られる美しい社殿で、向拝正面の彩色された3つの龕股が、更に美しさを際立たせます。

「流造」という本殿の形式は、「身舎の屋根と、その前に延びる庇と向拝の屋根が流れるように一連となった切妻造、平入」というものをいい、奈良時代から平安時代には成立したと考えられますが、県内はもとより国内でも最も多く、市内の神社でもほとんどがこの形式です。

この「流造」でも大きく2つあり、1つは「一間社流造」で

す。平安時代から江戸時代の文久3（1863）年まで30年に1度の式年遷宮で伊勢神宮のように本殿が建て替えられてきた京都の上賀茂神社本殿と権殿、下鴨神社東本殿と西本殿の4棟（国宝）の姿で、これが原型に近いとされています。

ところが鎌倉時代、徳治3（1308）年建立の竜王町の苗村神社西本殿（国宝）を始めとして、近江の「三間社流造」

本殿は、原型に近いとされる上賀茂神社、下鴨神社と違い、「前室付き」と呼ばれる身舎の前の庇部分に前室のような一間があります。この一間は神職が神に行う儀式に必要なため追加されたものです。八幡社本殿は「前室」がないことから、桃山時代の原型を守りつなげる馬淵の人々の意思の固さを知るうえで貴重な歴史遺産といえます。



八幡社本殿

広報おうみはちまんは、各自治会を通じてお届けします。また、各学区コミュニティセンターや図書館などの公共施設、郵便局、金融機関、セブン-イレブン・ファミリーマート各店舗などに置いているほか、市ホームページやマチイロ、マイ広報紙などでもご覧いただけます。

人口と世帯 令和4年11月1日現在 ()は前月比

| | | |
|----|----------|--------|
| 総数 | 82,008人 | (+ 3) |
| 男 | 40,309人 | (+ 1) |
| 女 | 41,699人 | (+ 2) |
| 世帯 | 35,102世帯 | (+ 21) |

※外国人住民(44か国・地域/1,779人)を含みます。

Facebook



YouTube



Instagram



マチイロ



マイ広報紙



LINE

